

Ⅲ だるまの活動概要

1. 活動概要

【1】発足の経緯

① 「防災塾・だるま」の夜明け前

2005年6月神奈川大学生涯学習講座が、神奈川県民大学「地域・防災・まちづくり」のテーマで実施されました。この時会員の池田さんが7回の内1回を、横浜市内の「ネットワークの繋がり」で、講師に指名されました。防災に関心を持っていたとしても、それまでに何の実績もない素人を指名するとは相当困った！！最低限のレベルは確保された講座を作ろうと協力依頼したのが、同じ町内の森下さん。日本生産性本部で社会人教育をしていたプロ、もう一人も生涯学習に関心の深い中島さんでした。何度かの準備会を経て講座資料を作成することができました。

終了後、地元の伊東さん、柿田さん、森下さんのほか中島さんなど、受講者数人が発起人となり、「防災まちづくり談義を楽しむ会」を発足させたのが始まりです。

② 素人の集団出発進行

講座終了後、防災について学びたいが「会場・教材・指導者」をどうすればよいか迷っているところ、講師の一人であった荏本先生が声を上げてくれました。そして、神奈川大学の利用、教材、必要に応じてサポートするとの発言に皆さん一安心、「スタートしましょう」と、区民大学講座終了後6月より会合が始まりました。

月例会は毎月1回平日の夜間に10名前後、小さな会議室でのスタートでした。教材は、先生がNHKのビデオテープを用意してくれました。それを皆さんと視聴し意見交換するところから、活動が始まりました。地域での防災活動報告、行政の取組み、被災地のボランティア活動者と自由に意見交換し、情報を共有しました。荏本先生との出会いがだるま出発の原点になったと思います。

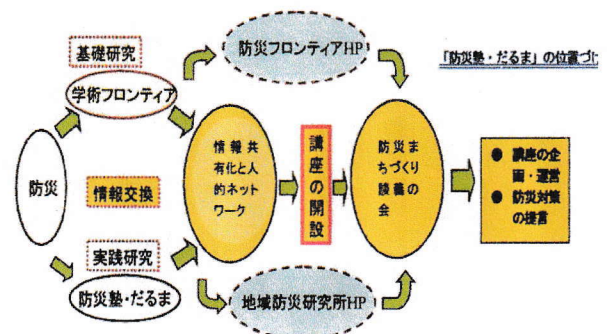
【2】荏本先生の防災理論の実践舞台としてだるま発足

荏本先生には、阪神淡路大震災直後の現場の体験から10年目、「大学の研究活動を理論化し、市民活動と共に歩みたい」との意向があり、我々との合意の上、研究活動と地域活動の両輪で進めることにしました。

防災塾・だるまは「市民と共に七転び八起き」からネーミングしました。会の名称は「防災まちづくり談義を楽しむ会」とし、その後「楽しむ会」では不相当との意見があり、名称を「防災まちづくり談義の会」に、略称「談義の会」としました。

活動の基本は「自分の命の大切さ」「助け合い」「行政と市民のギャップを埋める」としました。防災を学習する集まりから、「七転び八起き」の精神で地域防災力向上に役立てる団体へと舵を切ることとし、「防災塾・だるま」(通称「だるま」)と命名しました。

震災現場からの教訓を得るため、現場の調査、阪神淡路大震災「1.17のつどい」への参加、被災地の方々との交流へと広げ、その成果を相互に意見交換し合いました。この活動を通して、市民活動を「楽しみながら続ける」、「他人に迷惑を掛けない。」こととし、目的を ①活動を通じて相互の防災力向上を図る。②防災情報の共有化と人々の繋がりが基本的人的ネットワーク作り ③地域社会の防災まちづくりに貢献する、としました。



【3】活動紹介

① ホームページの開設

様々な活動を紹介するには、基本的には「誰もがいつでも閲覧できるホームページ(HP)」へのタイムリーで正確な情報提供

が大変重要です。

2011年6月、防災塾・だるまの活動を紹介する専用のホームページを開設し、ノウハウが詰まった成果を一般公開、共有化を図っています。ホームページ委員会のメンバーは河上さん、佐藤(忠)さん、白田さん、中島さん、山田(富)さんの各氏で、作成役割分担を決めて進めました。

2021年2月1日までのヒット数累計は42748回、2020年度の年間閲覧数4392回でした。

多くの市民が私達の活動に参加し易いような画面作りを目指しています。

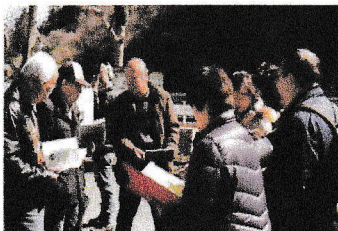
② 談義の会等のチラシやカレンダー

談義の会のチラシやカレンダーは活動の宣伝と報告を紹介するための広報の一環と考えています。講師の方々にお会いしてお話を伺い、講演(談義の会)の「タイトル・テーマ」「概要」「写真・イラスト」などをお願いしたり、他にもいろいろな資料を調べてイメージします。「講演を聞きたい、お会いして質問してみたい」と思ってもらえるように、イラストや写真等を生かして、バランスや色使いを考え、ちょっとおしゃれで効果的なチラシになるよう作成(努力)しています。カレンダーでは、1年を通しての会員の活動の紹介をしています。

(13ページで参照ください)

③ NHKテレビで紹介される!

荏本先生の地盤研究も進み、2017年4月9日21時に放映されたNHK-TV「NHKスペシャル 大地震・あなたの家は



どうなる～見えてきた「地盤リスク～」への取材協力、現地案内と地盤構造の説明が行われました。

④ 新聞各紙や鎌倉萌等への広報

朝日新聞マリオン等の掲載もありましたが、広報紙「鎌倉萌」は、鎌倉市を中心に約1万部が発行され、可能な限り掲載を続け

ています。だるま10周年記念誌は地域紙のタウンニュースにも紹介されました。

神奈川新聞記者の渡辺渉氏の防災活動への様々なご協力は、感謝に堪えません。行事のPRから活動の紹介、解説、減災新聞、防災への啓発記事は貴重なものがあります。

⑤ 神奈川大の協力：チラシ掲示

だるま行事のチラシは、教授である荏本先生の承認を得て大学事務局に申請すると、神奈川大のキャンパスに掲示が可能となりました。

⑥ 「考える防災」の発行

会員の片山さんが防災への心がけを、磯子市民活動支援センター連絡帳の「いそつな」をベースに「防災・減災は家庭と地域の取組みが決めて」として100のテーマにまとめ、現在活動時に配布し好評です。



【4】スムーズな運営、神大キャンパスから

市民活動の鍵の一つは、「定期的な活動の運営がスムーズに行える会場確保」が重要なポイントです。発足時より、荏本先生が神奈川大学内の会場を安定的に提供して下さいました。

最近の新型コロナウイルス禍で、大学での会場利用が困難になりましたが、神奈川大学には感謝の思いでいっぱいです。

【5】新型コロナウイルス感染症「COVID-19」禍による事業の停滞と新体制の対応

・2020年3月、新型コロナウイルス感染症の発生と蔓延により、会議室での会議の開催が困難になり、オンライン(Zoom)会議に詳しい会員の鷲山さんの指導で、会議へのリモート参加の体制を作りました。会合は、机一つに1人のソーシャルデスタンスを保って参加できる会場としました。

付 防災塾・だるまについて



人的ネットワークによる防災まちづくりを推進
防災塾・だるま
 Risk Management with Soft & Hard Measures on Natural Disaster

防災塾・だるまについて

地域の防災活動は、来るべき大地震の際の減災に大きく寄与します。このような主旨で、2005年神奈川区主催の、生涯学習講座「地域防災まちづくり 全7回」が、神奈川大学で開催されました。

講座終了後、受講生などを中心に、「防災・まちづくり談義を楽しむ会（防災・まちづくり談義の会と改称）」が発足しました。「防災・まちづくり談義の会」は、大学・行政・自主防災組織・ボランティア組織の方々を交えた会合で、防災情報の共有化をテーマにして、月1回（平日の夜）神奈川大学で開催されています。

この「防災・まちづくり談義の会」の運営を円滑にし、ここで交わされた意見や課題を実践活動に移す目的で、「防災塾・だるま」が発足しました。

2006年「防災塾・だるま」は、防災に関する、より実践的な講座を企画しました。この講座は、神奈川大学のエクステンション講座「実践的防災まちづくりコーディネーター養成講座 全10回」として開催され、以後、2007年度、2008年度（予定）と毎年開催されるようになりました。

さらに、「防災塾・だるま」は、横浜から離れた県央の秦野市や県西の大井町でも活動を展開しています。

「防災塾・だるま」の目標すもの

- ・地域防災力を高めて維持していくための防災まちづくり。
- ・多様な生活環境を持った人々の繋がりを基本とする人的ネットワーク。

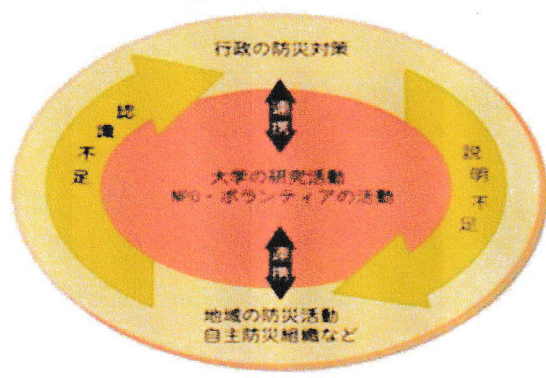
「防災塾・だるま」の活動

- ・実践活動に利用できる講座の企画、運営。
- ・市民の立場から「防災まちづくり」に関する行政への提案。

防災の基本



情報の共有化の必要性



「防災塾・だるま」ホームページ：<http://darumajin.sakura.ne.jp/>

第173回 防災塾・だるま 防災まちづくり談義の会

テーマ **日本と世界各地の主に地震被災地を訪ねて!!**

＜概要＞
防災工学や防災の専門家として、約40年間海外・国内の多くの地震被災地や国際共同研究・国際会議で、その被災地や被災者の実情を把握してきました。
そして、台風や洪水、地震などの災害が多発している昨今、場所や状況が異なれば、災害の様相は大きく変わることを見識しました。



講師：荻本孝久氏
神奈川大学工学部教授

◆日時：2019年12月13(金)
15時15～16時45分
◆会場：神奈川大学1号館301号室
◆参加費：無料
◆申込み：不要（連絡会場に申し込みたい）
主催「防災塾・だるま」
<http://darumajin.sakura.ne.jp>



次回の開催 開催日時：2020年1月24日(金)17時～18時30分(予定) 場所：神奈川大学1号館301号室

防災・減災の輪を広げよう!

令和4年 「防災塾・だるま」活動の紹介

12月 月 火 水 木 金 土 日

11月 月 火 水 木 金 土 日

10月 月 火 水 木 金 土 日

9月 月 火 水 木 金 土 日

8月 月 火 水 木 金 土 日

7月 月 火 水 木 金 土 日

6月 月 火 水 木 金 土 日

5月 月 火 水 木 金 土 日

4月 月 火 水 木 金 土 日

3月 月 火 水 木 金 土 日

2月 月 火 水 木 金 土 日

1月 月 火 水 木 金 土 日

「防災塾・だるま」
HP <http://darumajin.sakura.ne.jp>

「第180回 防災まちづくり談義の会」

現地会場 参加 (要申込下記参照) + ZOOM オンライン参加 (会員のみに)

「日本列島の誕生と自然災害の理解」

～卓上で創る日本列島で理解する日本列島の生い立ちと災害～

講師：防災塾・だるま 副会長 元小学校校長 藤山龍太郎氏



第1部：開 演 13:30～14:30 「日本列島の誕生と自然災害の理解」
第2部：定例会 14:45～16:30 2021年防災サロン開催の会 (要申込)
会場：横浜青少年育成センター 第一研修室 (地下2階)
住所：横浜市中区庄町4-42-111 (防災塾・だるま会館)

- ・古くは原始時代、海道のサンゴ礁。
- ・フィリピンプレートと北米プレートの衝突で誕生した日本列島。
- ・フォッサマグナは地殻の断層線。そこに居住地。
- ・中央海嶺の生れが日本列島の西日本と東日本とを分ける。
- ・プレートが衝突した北米と衝突している九州。
- ・「日本列島の誕生」で日本は北半球から南半球へ。
- ・突入する巨大小惑星。南極氷床。南極トラフ巨大地震の発生。
- ・フィリピンプレートは日本列島のイザナ？母であり、支那のもと。
- ・プレート衝突と地殻の断層線。中央海嶺海嶺道で多発する地震。

受講者と創った日本列島。今回はこの3D地図を作成します。左上のストーリーで、ご覧ください！

大会費：前席 30名(要申込) 後席 100名(要申込)
会場：横浜青少年育成センター 第一研修室 (地下2階)
参加申込受付：050-5504-9812 Fax: 045-471-9923 (要申込)
主催「防災塾・だるま」
<http://darumajin.sakura.ne.jp>

15分休憩「防災塾」 15分休憩「防災塾」 15分休憩「防災塾」
15分休憩「防災塾」 15分休憩「防災塾」 15分休憩「防災塾」
15分休憩「防災塾」 15分休憩「防災塾」 15分休憩「防災塾」

大会：5月28日(金) 13:30～「神奈川大の誕生と自然災害」講師：副会長 藤山龍太郎

第184回 防災まちづくり談義の会

2021年11月26日(金) 14:00～14:45 (開会オンライン参加は4時～)
会場：横浜青少年育成センター (開会ホール地下2階)

「視界のない自助・共助の地域防災の構築を目指して」

～被災者0に向かって進める自助・共助・公助・医療との連携～

【概要】 地域で大きな災害が発生した時、命を守り、被害を軽減するためには、地域の自然、社会的特徴の理解に基づいた地震・風水害など災害への想定とそれに対応した行動指針を共有し、地域・学校・保護者、そして医療関係者との連携を進めることが大切です。

北相模小学校が地域防災拠点とした学区全体での防災教育も意識した地域連携防災事業での取り組みは、2018年度に「文部科学大臣表彰」を受賞しました。北相模小学校地域防災拠点の運営副委員長を務め、地域の防災リーダーとして活躍されている堀中祐二氏を講師としてお招きし、「地域の共助の先進事例の取組」の実践についてお話しいただきます。

今日の談義の会では地域の地形や特徴、災害リスクを反映したタイムライン作成を市民に促すことを目指したBサロンのメンバーの研究も取り上げ、堀中講師と共に防災拠点となる学校と地域の連携をさらに強固にし、防災教育も大事にして進める活動のこれらから、連携を促して命を守る共助力向上の課題を考察します。

講師：堀中 祐二氏
北相模小学校地域防災拠点 運営副委員長 副委員長

- 本日の予定 13:15～16:45
1. 定例会 (会費) 13:15～13:45
 2. ① 防災まちづくり談義の会 14:00～14:45
「視界のない自助・共助の地域防災の構築を目指して」堀中祐二氏
② 職員交流会 コーディネーター山崎麻子(北相模小学校) 15:00～15:30
※ 休憩 15分 (15:30～15:45)
 3. 防災サロン「A～D各サロンに分かれて開催」自由参加型 15:45～16:45

★公開講座：事前申込は30名(要申込) リモート参加は100名まで
★参加費：無料 (当日参加費100円)
★会場：横浜青少年育成センター (開会ホール 地下2階)
★アクセス：JR 相模線「鶴が家」下車徒歩7分 横浜市中区地下鉄(ブルーライン)「関内駅」下車徒歩5分 多摩とみらい線「東横線」下車徒歩5分
★事前申込受付：防災塾・だるまHP申込サイトまたは以下のGoogleフォームから
(アドレス <https://forms.gle/2GxYt1Nk0H42D7Zs8R>)
主催「防災塾・だるま」HP <http://darumajin.sakura.ne.jp>

2. 荏本研究室研究経過の概要

【1】人と自然と歴史に学ぶ防災論

—防災塾・だるまの設立と災害の複合化—

資料：日本地震工学会 2014 年講演資料、横浜商工会議所 2017 年講演資料ほか

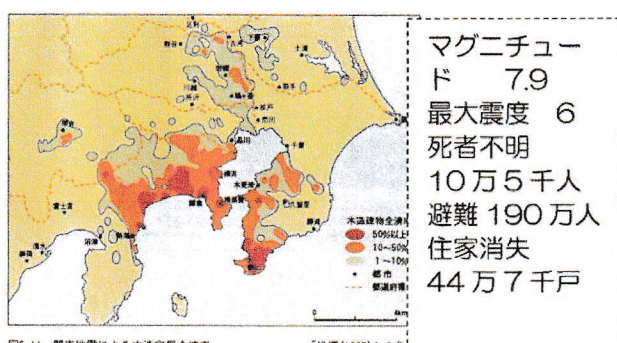
① はじめに

★1995 年阪神・淡路大震災の教訓

- ・地域防災力の重要性の認識
- ・自助・共助・公助の普及
- ・防災情報の共有化と人的ネットワーク構築

★首都圏直下地震を震源とする大地震発生の切迫性

- ・1923 年関東大震災の木造家屋全壊率



★地域社会の変質

- ・無防備・無関心社会 → 困惑社会 (3.11 以降)

★地域防災力の向上

- ・防災まちづくりを実践できるような防災情報の共有化
- ・人的ネットワークの構築

★地域防災活動の支援

「防災塾・だるま」の設立・活動

★「市民と共に七転び八起き」活動の必要性と重要性

② 震災の教訓と変化

★1995 年阪神・淡路大震災の教訓

<防災対策の教訓>

- ・ハードな対策：耐震性向上
- ・ソフトな対策：地域防災力の向上

<自助・共助・公助の発想>

- ・基本は自助努力

- ・防災活動のネットワーク化
<ボランティア活動の受け入れ>
- ・ボランティアの育成
- ・派遣と受け入れ体制の組織化

★2011 年東日本大震災の教訓

<想定外の広域複合対策 超巨大地震と巨大津波による複合災害の発生>

<自治体・防災機関の被災、自治体間の広域連携の重要性>

<自主・防災活動の強化、ボランティア活動の受け入れ>

<原発事故による広域的放射能災害>

★2016 年・熊本地震の教訓

<事前防災対策の充実>

<建物の耐震性の向上>

<地域防災力の育成強化>

- ・基本は自助
- ・共助 ・防災訓練と教育の活性化

★ボランティア活動の受け入れ

- ・ボランティアの育成
- ・派遣と受け入れ体制の組織化

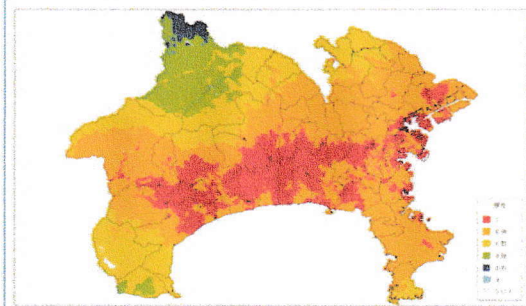
★2018 年西日本豪雨、2019 年の台風 15 号および 19 号等最近の風水害と土砂災害の教訓

<ハザードマップの活用（伝達情報等による危険予知）>

<タイムライン防災による事前防災対策（自助共助による正しい行動、要支援者対応）>

<分散避難への移行（在宅避難の重要性、新型コロナウイルス対応、インフラ途絶対応）>

(荏本先生の地盤研究)
神奈川県地震被害想定結果
震度分布：大正型関東地震



【2】在研究室の災害研究の推移主旨
ハード・ソフト融合型の災害リスクマネジメント
 (2005年—2009年)

●ソフトな防災対策とハードな防災対策を合わせて防災リスクを評価・認識し、リスクマネジメントを実践できる手法を開発

- ・定量的に評価するための手法の検討
- ・地域の自主的な防災活動に関する情報の収集整理
- ・情報の共有化および人的ネットワークの構築
- ・ソフトな防災対策に関しての実証的かつ実践的な調査研究活動が重要

大学・研究者間連携
 (2016年～)

●「かながわ人と智の防災・減災ネットワーク」の構築、県内大学・研究者間情報交換

- ・防災・減災研究に特色ある活動を行っている大学・研究者のネットワーク
- ・拠点となる大学を中心に、研究者間連携のネットワークの構築、県東部・県央・県西部地域で連携を推進
- ・各地域内での連携を拡張して、県内の大学・研究者間連携を推進
- ・県内各地の自治会・民間企業などと連携して活動の推進と課題解決への提言・協働
- ・これらの取組みの情報発信のシステムを構築し、防災・減災情報の共有化を図る

まとめ

- | | |
|--------------------------------|------------------------|
| 1. <u>自主防災活動は、自主・共助の原点</u> | → 「草の根」的な活動が重要 |
| 2. <u>防災活動を牽引するリーダーの育成が必要</u> | → 必ずしも「自治会の責任者」でなくても良い |
| 3. <u>防災情報の共有化と相互連携が重要</u> | → 「防災訓練・防災教育」は繰返しが必要 |
| 4. <u>地域の特徴を把握し、住民で共有する</u> | → オープンな「防災イベント」の開催 |
| 5. <u>行政機関やボランティア組織との連携が必要</u> | → 地域防災力の向上 |

地域防災対策支援研究プロジェクト
 (2013年—2015年)

●神奈川県に係る防災研究データベースの活用を起爆剤とした官学民連携による地域防災活動活性化研究

- *官学民へのアンケート調査(3年間)
- ・防災研究に関するデータベースの構築
 - ・情報公開 地域防災活動への利活用

防災・減災中核研究拠点の形成
 (2015年—2018年)

●専門知と経験知の融合による大規模災害に関する防災・減災中核研究拠点の形成

- ・専門知と経験知の融合による防災・減災システムの構築と見える化に関する研究
- ・大規模災害における社会的共通基盤のリスク認識に関する研究
- ・知の融合によるコミュニティ/リスクマネジメントの構築に関する研究